
新潟青陵大学
入学試験問題
－ 小論文 －

2021

※解答例は掲載していませんのでご了承ください。

2021 年度
新潟青陵大学
学校推薦型選抜・社会人特別選抜・
新潟青陵学園内特別推薦入試 試験問題
「小論文」

試験の受け方について

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題用紙には手を触れないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 3 試験時間は 90 分です。
- 4 印刷が不明瞭な場合のほかは、問題について質問は受けません。
- 5 試験終了時に解答用紙を提出してください。
- 6 試験終了後に問題用紙と下書き用紙はお持ち帰りください。
- 7 不正な行為があった場合は、解答はすべて無効となります。

小論文問題

- 一 次の文章を読んで、この文章の要旨を六〇字以内に要約しなさい。
- 二 次の文章を読んで、この文章についてのあなたの意見を五百字から六百字にまとめなさい。

人生はしばしば物語にたとえられる。その物語のなかでは、大なり小なり喪失が生じ、その都度、筋書きを修正しながら、先の物語が紡がれていく。想定外の重大な喪失、たとえば物語の重要な登場人物が突然いなくなってしまうと、物語はときに壊滅的に崩壊し、筋書きが大きく書き替えられなければならない。

人によつては、「自分の人生は終わった」と感じる人もいるだろう。しかし、「自分の死」を迎えるまでは、見える景色が変わったとしても、人生の物語はまだ終わっていない。若くして重大な喪失に直面した場合には、その後の人生のほうはずっと長いかもしれない。

詩人の谷川俊太郎氏による『そのあと』という詩がある。

そのあとがある／大切なひとを失ったあと／もうあとはないと思つたあと／すべてが終わつたと知つたあとにも／終わらないそのあとがある

そのあとは一筋に／霧の中へ消えている／そのあとは限りなく／青くひろがっている
そのあとがある／世界に　そして／ひとりひとりの心に

喪失後のストーリーはまだ白紙かもしれないが、命ある限り、人生の物語は途切れることなく続いていく。重大な喪失に直面してまもなくは、その後のことを考える余裕はないだろうし、考えること自体が苦痛かもしれない。時間が止まってしまったかのように感じることもある。物語の結末は誰にもわからないが、その後の方向性や展開は、その物語の主人公である私たち一人ひとりが考えていくほかない。

重大な喪失に遭遇したあとの道のりとして、私たちが取り組まなければならない課題は大きく分けて二つある。一つは、喪失の現実を自分なりにどのように受け入れるのかという困難な課題である。もう一つは、喪失の結果として生じる生活上の問題やこれからの人生にどう向き合っていくのかという課題である。たとえば、死別の場合、大切な人の死を受けとめることに加えて、家事や家計管理といった故人の果たしていた役割を会得することや、就職や転居の検討など、故人のいない今後の生活にも対処していかなければならない。

(中略)

このような二つの方面への対処は、並行する動的過程である。つまり、あるときは喪失の現実に向き合い、一方では生活上の問題に取り組むという、行ったり来たりする対処の過程であると考えられている。どちらか一方の課題だけではなく、双方の課題に、同時並行で向き合っていかなければならないのである。喪失の現実を受け入れることができて初めて新たな人生の物語が始まるのではなく、完全には受け入れられなかったとしても、生活や人生は着々と進んでいて、その後の物語はすでに始まっている。

坂口幸弘 『喪失学「ロス後」をどう生きるか?』

(光文社) 二〇一九より

